

教 育 長 様

校番 028 御調 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校  
平成30年度 報告書**

**研究の概要**

## 研究の目標

**1 生徒に身に付けさせたい資質・能力の行動目標の設定、及び習得状況を把握する評価指標の明確化**

## ア 行動目標の設定

本校（「総合的な学習の時間」）の身に付けさせたい7つの資質・能力（E S D：批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーション力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度）のうち、2つ（未来像を予測して計画を立てる力、進んで参加する態度）について各行事等における行動目標を明確に定める。

## イ 評価指標の設定：ルーブリックの作成

身に付けさせたい資質・能力を確実に育成するため、生徒の習得状況を見とることができる評価指標（ルーブリック）を作成する。

**2 次期学習指導要領を踏まえた教育課程の編成**

## ア カリキュラムマップの作成

各教科・科目、「総合的な学習の時間」及び特別活動において、教科の力に加え、汎用的な資質・能力を意識した単元計画を作成する。7つの資質・能力を柱に、各教科・科目、「総合的な学習の時間」、学校行事等を整理し、それらをつなぎ合わせて、教科横断的なカリキュラムマップを作成する。

## イ シラバスの改訂

先進校の事例や、自校の現行のシラバスを分析し、次期学習指導要領を意識したシラバスの全面改訂を視野に入れ、方向性を定める。

**3 カリキュラム・マネジメントの充実を図る校内体制の構築**

トップダウンやボトムアップがより機能するような校内体制を構築する。

## 研究内容（※対象，時期，方法を含む）

**1 生徒に身に付けさせたい資質・能力の行動目標の設定、及び習得状況を把握する評価指標の明確化**

## ア 資質・能力の再整理

プロジェクトチーム会議での協議や、大学教授からの助言等により、E S Dの観点に基づいて設定した本校が目指す資質・能力を本校生徒の実態に即して再定義し、それらと学力の三要素との関連を整理した。それを踏まえて10月中旬に、各学校行事と、そこで身に付けさせたい資質・能力の関連性を表に整理した。

## イ ルーブリックの作成

プロジェクトチーム会議での協議や、大学教授からの助言により、本校で定義した資質・能力について、基盤となるルーブリックを作成した。必ず全員を到達させる目標を基準2としている。資質・能力の定義、各学校行事との関連、ルーブリックは、生徒会の生徒と協議を行い、目的等を説明した後、疑問や意見をもらい、ともに検討している。

評価方法に関する研究として、ポートフォリオ評価（御調高校版キャリアノート）のモデルの素案を作成し、11月中旬、2月下旬に筑波大学名誉教授である渡辺氏を招聘し、活用方法等について助言をいただいた。2学期の振り返りとして、全学年に各資質・能力の到達度を評価させるレーダーチャートを含めたワークシートに取り組みさせた結果、各学年の特色や個人の状況を見て取れた。

**2 次期高等学校学習指導要領を踏まえた教育課程の編成**

## ア カリキュラムマップの作成

教科（国語・数学・理科・地理歴史・公民）において各単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、各資質・能力の習得状況を見とる評価問題（パフォーマンス課題）を取り入れた単元計画を作成した。国語、数学については9月下旬、2月上旬に研究授業を行い、京都大学准教授である石井氏から授業づくりや授業研究についての指導助言を頂いた。2月には兵庫教育大学の奥村氏を招聘し、各教科で作成したパフォーマンス課題の案を持ち寄り、他教科の教員とともに検討する中で理解を深めた。

総合的な学習の時間では、担当教員とプロジェクト担当者による協議を通して単元計画を作成した。6月には探究のプロセスの中の「課題の設定」に重点を置き、地域活性化に向けての課題設定の段階の単元計画を作成した。地域や企業から講師を招聘して計画発表会を行った。質疑応答などを通して、直接意見を頂くことで、生徒にとって、新たな視点や地域が求めるものに気がつく機会となった。10月下旬には、主に「⑤振り返り、考えの更新」に重点を置き、これまでの取り組みを振り返って整理し、今後の方向性を定めることを目的とした単元計画を設定した。生徒は他校の情報を得ることで、新たな課題を発見するとともに、計画を立てることができており、一時間の授業の中で探究のサイクルを回す実践を行うことができた。

#### イ シラバスの改訂

自校のシラバスの改訂に向け、事例の収集を行った。

### 3 カリキュラム・マネジメントの充実を図る校内体制の構築

#### ア 授業づくり

6月に、今年度本校が目指す授業づくりを進める上でのポイントを「目標の明示」「言語活動の充実」「メタ認知的活動の充実」の3点に設定し、教科リーダー研修の資料や大学の研究資料等を参考にしながら、授業づくりの進め方について整理した。また、それに則り、授業参観シートを作成するとともに、授業研究の際に、生徒の活動や様子を中心に研究協議を行う等、授業研究の改善を行った。

#### イ プロジェクトの推進体制

上記の内容について、教務、授業づくり、プロジェクト担当者、管理職で定期的に会議を実施し、こまめに連携を取りつつ進めている。全教職員へ周知徹底するため、職員研修会を行う等、本校の組織図に基づいたトップダウン、ボトムアップを実践している。

今年度の成果と次年度の課題（※仮説の検証を含む）

#### 成果

### 1 生徒に身に付けさせたい資質・能力の行動目標の設定、及び習得状況を把握する評価指標の明確化

ア 漠然としていた目標を、本校の生徒の実態に合わせたり、行事との関連について検討したりすることで、目指すべき生徒像や具体的な姿について考え直し、生徒を基点とした目標設定に向けて取り組めた。

イ 生徒会との協議によって、生徒にも分かりやすい目標を作成するヒントを得ることができた。

### 2 次期高等学校学習指導要領を踏まえた教育課程の編成

ア 各教科で身に付ける資質・能力を明確にし、評価問題（パフォーマンス課題）を取り入れた単元計画を作成する中で、教員が活用場面まで視野に入れた授業づくりができるようになってきている。社会に開かれた教育課程の編成のため、総合的な学習の時間では、地域人材や企業、他校との連携を行った。

イ 研修や先行事例を通して、自校のシラバスや単元計画の分析を行った。

### 3 カリキュラム・マネジメントの充実を図る校内体制の構築

ア 校内授業研究や相互授業観察の際に用いる授業参観シートを生徒の様子を基点としたものに改善したことで、授業者、参観者ともに、付けたい力が生徒に実際に身に付いているか、手立ては適切であったかを協議し、意識を高めることができた。また、他教科の教員同士でパフォーマンス課題の協議を行ったことで、教科間での連携について視野を広げることができた。

イ プロジェクトに関して、教員全員へ周知することができるよう、推進体制を整えた。

#### 課題

### 1 生徒に身に付けさせたい資質・能力の行動目標の設定、及び習得状況を把握する評価指標の明確化

ア 資質・能力の定義やルーブリックが、生徒全員に正しく理解できるものになっておらず、改善や工夫が必要である。また、資質・能力の定義に時間がかかったため、各学校行事の具体的な行動目標を整理するに至っていない。設定した資質・能力が生徒にとって理解でき、定着させるためには、より平易な表現でわかりやすいルーブリックや定義に置き換えて提示する必要がある。

イ 作成したポートフォリオ評価にかかるキャリアアンケート等の目的や効果を、教員も生徒も理解した上で指導に生かすことが出来るのか、活用方法も視野に入れる必要がある。

### 2 次期高等学校学習指導要領を踏まえた教育課程の編成

ア これまでの校内の取組の成果もあり、教員が認知心理学に基づいて単元計画を描くことはできるようになってきている一方、活用する力の習得状況を見とる評価問題（パフォーマンス課題）については、適切な課題になっているか引き続き専門家の指導や研修により、改善が必要である。

イ 資料の収集は行ったが、今後は実際にどのように改訂を行っていくのかを検討する必要がある。

### 3 カリキュラム・マネジメントの充実を図る校内体制の構築

ア 一時間の授業内ではPDCAサイクルを意識して行っているが、単発的なものになってしまっており、年間の見通しが整理されていない。単元計画や、シラバス（年間指導計画）について、教科横断的、社会とのつながりという視点で教育課程を再編成していく必要がある。

イ 全教員への周知、普及が不足しており、連携が取れていない場面もあった。

